

令和8年度 専攻科 後期 学力選抜試験

受験番号		氏名	模範解答
------	--	----	------

総得点

建築計画（2の1）

（問1）以下の住宅・集合住宅計画に関する文章の正誤を判断し、正しいものは○、誤っているものには×を、下線部分に記入しなさい。（配点 ①～⑧各2点）

問 1 (得点)

- ①日本で最初に洋風化の影響を受けた住宅は居留地に建設された西洋館である。  
その居留地の現存する最も古い外国人住宅は、神戸の「神戸居留地 51 番館」である。  
×：神戸の「神戸居留地 51 番館」×→長崎「グラバー邸」(1863 年) ○
- ②「シュレーダー邸」は、デ・ステイル運動の建築理念を体現した住宅建築として、モンドリアンの絵画理論を三次元空間に展開した代表例である。  
○
- ③京都大学の大学院から住宅の住まい方を研究対象とし、「食寝分離論」を提唱したのは、佐野利器である。  
×：佐野利器×→西山卯三○
- ④南北に長い日本列島の住宅の特徴において、海岸沿いの塩風を考慮しない家を設計した。  
×：考慮しないことが×
- ⑤“ピロティ”が採用されている住宅事例として、ルイス・カーンの「フィッシャー邸」が当てはまる。  
×：ルイス・カーンの「フィッシャー邸」×
- ⑥構造体スケルトン (S) と居住者がしつらえるインフィル (I) による構成で、近未来型実験集合住宅として建てられた建物の名前は「NEXT21」である。  
○
- ⑦「住宅は住むための機械である」と定義したのは近代建築の巨匠のひとりであるル・コルビュジエである。  
○
- ⑧集合住宅で、高層集合住宅団地（都市型）の事例として、横文彦の代官山ヒルサイドテラスが当てはまる。  
×：東雲キャナルコート○

（問2）次の学校建築に関する問いについて答えなさい。

問 2 (得点)

右図は東京都豊島区西池袋にある校舎であり、大正 10～昭和 2 年（1921～27）にかけて建設された。この建築物の名称と設計した建築家を答えなさい。

（建築物の名称）自由学園明日館（自由学園のみでも○）（配点 2 点）

（建築家名）フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright）

（配点 2 点）



（問3）問2の学校建築の特徴を、学校建築の特徴とその教育方針を考慮したうえで説明しなさい。（配点 5 点）

問 3 (得点)

この建物は、ライトが羽仁もと子・吉一夫妻のキリスト教を土台とした「24 時間の生活すべてを学びの場」と考える教育思想に共鳴し、大正 10 年（1921）に女学校として建てられた。「簡素な外形のなかにすぐれた思いを充たしめたい」という夫妻の希いを基調とし、基本設計をライトが行い、愛弟子である遠藤新が実施設計を行った。平成 9 年（1997）には、国の重要文化財に指定され、現在も教育の場として活用されている。各建物の外観は軒高を抑え、水平線を強調し、ライトの住宅建築に共通するもので、プレーリー・ハウス（草原住宅）と呼ばれる。自由学園明日館はライトの日本における代表作の一つであるとともに、プレーリー・ハウスの典型的な例である。（下線部の内容が入っていれば○）

# 令和8年度 専攻科 後期 学力選抜試験

受験番号		氏名	模範解答
------	--	----	------

## 建築計画（2の2）

（問4）図書館の計画に関する以下の問いに答えなさい。

問 4（得点）

- （1）図書館の平面計画を行う上で、「利用者動線」、「スタッフ動線」、「図書・資料動線」各々の計画上の留意点について説明しなさい。（配点9点）

「利用者動線」：動線は単純明快に、短くする。種類の異なる動線、成人と児童の動線は交差しないようにする。避難のための動線を確保する。人などの交通量、時間帯などを考慮して計画する。集会室の利用者と開架室の利用者の性質（来館目的等）を考慮して、集会室は出入口に近い位置に設ける 等

「スタッフ動線」：カウンターに隣接して管理部門（事務室や作業室）を設け、開架室との連絡をスムーズにとる。カウンターは利用者出入口に近く、利用者の動向や全体を把握しやすい位置とする

「図書・資料動線」：カウンターの近くに図書・資料用の搬送設備を設け、労力をかけずに移動を容易にするとともに、貸出、返却、整理業務をスムーズに行えるよう配慮する。

- （2）図書館の分館クラスの規模計画について説明した以下の文章の（ ）内を正しい語句や数値で埋めなさい。（配点 ①～⑤ 各1点）

分館クラスの適正規模（延床面積）の求め方は、(① 登録者数 ) から求める方法と、(② 目標貸出冊数 ) から求める方法がある。また、図書館の延床面積の概算の方法として、国際図書館連盟：IFLA の基準値1人あたり (③ 2 ) 冊を目安に自治体の能力を考慮して、地域図書館システム全体の蔵書冊数を決定し、蔵書冊数から1㎡あたり (④ 50 ) 冊で概算する。

また、通路や設備などのスペースに各機能空間の合計の (⑤ 30 ~ 40 ) %程度を充てる。

（問5）事務所ビル（オフィスビル）の計画に関して以下の問いに答えなさい。

問 5（得点）

近年の高度情報社会の到来や働き方の多様化に伴い、「ワークプレイス」の考え方が多く計画・設計に取り入れられるようになってきている。これはどのような考え方が説明したうえで、どのようなオフィスが求められてきているか述べなさい。（配点6点）

「ワークプレイス」とは、働き方の多様化に伴い、単に施設としてのオフィスではなく「知的活動の場」としてあらゆる場所が業務空間となる考え方である。創造性を高めるオフィスのあり方、知識創造を誘発するオフィスのあり方、環境に調和したオフィスの在り方等が求められ、それに対応すべく「フリーアドレス方式」や「~~オフィス~~ オフィスランドスケープ方式」「SOHO」等、種々の新しいオフィスの形態が提案され、需要が高まっている。

（問6）事務所ビル（オフィスビル）の計画に関して、「コアシステム」を採用することが一般的である。

「コアシステム」とは、どのようなものか説明しなさい。（配点5点）

問 6（得点）

上下移動のための階段、EVなどの設備と、それ以外のトイレ、洗面所、給湯室、それらの配管のためのスペース（事務空間以外の部分）を集中的・効率的に配置し、建築物のコア（核）として位置づけたシステムが「コアシステム」であり、特に貸事務所において、収益性をあげる（レントラブル比を高める）ように計画する際にコアシステムを採用することが有効である。